

令和4年度 第3回 四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日時 令和5年3月29日(水) 午後1時30分～
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 坂下博夫委員、竹内裕子委員、竹下すま子委員、柘植敏生委員、
中井孝幸委員、樋口雅也委員、福永智子委員、松井真理子委員
(五十音順)
図書館：館長(堀田)、副館長兼管理係長(村林)
奉仕係長(川崎)、生川主幹
4. 欠席者 岡田博子委員
5. 傍聴者 1人
6. 議題
 - (1) 令和4年度図書館事業報告について
 - (2) 令和5年度事業方針(案)について
 - (3) 令和5年度図書館実施予定事業について
電子図書館導入、新図書館基本構想策定事業等
 - (4) 令和5年度の休館日について
 - (5) その他

【館長挨拶】

図書館協議会条例第5条により、松井会長が議長となり、議事を進める。

【出席者確認・会議成立確認】定数9名、出席8名。

【傍聴者確認】1名。

【非公開範囲の決定】原則公開、適宜相談のうえ非公開の決定を行う。

- (1) 令和4年度図書館事業報告(11月以降)について
(事務局資料1説明)

委員：なのはな文庫の貸出数が多いが、どんな本が借りられているのか。

図書館：なのはな文庫はセットにして学校へ貸出するもの。よみものを中心とした低学年用、高学年用等のセットや、調べ学習などに使えるようなテーマに沿ったセットがあり、希望により追加で貸出している。貸出したセットは、学期ごとに次の学校に貸出している。

委員：図書館で展示を見ている。あすなろう鉄道や科学道の時には、学校にも小さなコーナーを作っており参考にしている。

委員：なのはな文庫は子どもたちにも、先生方にも好評である。これからも続けてほしい。あすなろう鉄道の講座参加者が9人とあるが定員は？

図書館：感染症対策のため、定員は保護者も含めて10人。多数応募はあったが、抽選の結果、また当日の欠席により9人となった。今後は、規制も緩和されたので、人数を調整しつつ参加できる機会も増やしていきたい。

委員：今後の催し時における人数制限はどのような形になるのか。

図書館：図書館ガイドラインが3月に新しくなり、市の方針も変更となった。コロナ流行以前のおり、とまではいかないが、3人座れた長机に、これまでは1人だったが、2人までは座れると考えている。この会場（視聴覚ホール）も、窓がなく換気が十分でない、という理由で使用を控えてきたが、参加人数と内容次第では、非常口など数か所開けることで使用可と判断、現在はボランティア団体に30名まで認めている。

委員：国立国会図書館デジタル化資料送信サービスというのは、決まった端末でPDF化した資料を見ることができる、ということか。

図書館：国立国会図書館が著作権をクリアした資料を公開しており、誰でもアクセスできるものと、IDが付与された個人・図書館のみアクセスできるものがある。2階閲覧室に1台パソコンを移設し、当館ではそこからアクセスできるようにした。中日新聞および官報のデータベースも同じ端末での利用となる。

（2）令和5年度事業方針（案）について

（事務局資料2説明）

委員：電子書籍の導入について。予算は、従来の紙の資料費とは全く別で予算なのか。紙の資料費の予算にくいこんでいるのか。

図書館：従来の資料費とは別で確保した。

委員：電子書籍について2万冊導入予定とあるが、小中学生向けのものはどのくらいになる予定か。

図書館：まだ具体的には決まっていない。小中学生でも大人の本を読む場合もあるし、すでにタブレットで読めるシリーズ本もある。また、通常は、1つの資料に対し1人しかアクセスできないが、複数人の同時アクセスが可能な「読み放題パック」というものがある。青い鳥文庫や「調べる」シリーズなどいろいろあり、朝読や家読で活用できるのではと考えている。学校関係各課と相談しながら導入について考えていきたい。なお、「読み放題パック」にはシリーズものもあるが、必ずしも全巻が読めるわけではない。途中までは「読み放題パック」で読み、続きを読むために紙の本がある図書館に、というケースもある。導入済みの自治体からは、今まで図書館に来た事がない子が、親を連れて図書館に来た、という話も聞く。継続的な読書の習慣づけに繋げていけるとも思うので、やり方を考えていきたい。

委員：学校図書館との連携として大阪の寝屋川市の紹介を。ここは、地震で中央図書館に被害が出たため、急遽、新しい場所につくる必要ができたのだが、時間をかけずに、ということで、商業ビルの4階に入った。市長がとても教育分野に熱心。

- ・小中学校でディベート授業あり、そのテーマは学校で決めるが、図書館ではテーマ別（人権を考える、星を見るなど）に100冊のセット本を用意。小中あわせて36校分のセットを作り、学校に順々に貸出をし、ディベート授業の参考に使っている。
- ・郵便局と提携しており電話やネットで予約した本を近所の郵便局で受け取れる。本は袋に入れておりどんな本を借りているかの情報は守られる。そのサービスを、生徒のタブレット端末からもでき、予約した本は学校まで配送され教室で受け取れる。すごいなと思った。中央館はさほど大きくなく（蔵書14万冊ぐらい）、市域全体で50数万冊で予約本の対応している。人口22万人、狭い地域にたくさん人がぎゅっという感じ。
- ・学校司書の作業スペースが中央図書館と同ビルの5階にある。学校司書9人（1人4校ずつ担当）の机と作業台が1人1人あり、学校司書同士、また、月に1回、図書館の司書も含めてミーティングができる。そうやって顔を合わせるので議論ができ、アイデアがでる。一例として、中学校になると利用がガクンと減る、という話から、絵本を100冊もって学校で面出し展示をやってみた。中学生たちが、これ読んだことあるーとふらふらと絵本に集まり、非常に好評だったと。そういったアイデアが出る。

学校図書館との連携は、なかなか難しい。寝屋川市はものすごく積極的にやっていて、学校図書館との連携は市長の思いがあり予算もかなりついている。はじまって1年2年の活動だが、寝屋川の取り組みは参考になると思った。教室で本を分けるなどマンパワーが必要なこともあるが、これからはっきり定着させていきたいと言っていた。学校図書館との連携は、四日市で何ができるかはまた個別で考えていただきたいが、来てもらうこと、こちらから出かけていくことも含めて、タブレットを使ってやりとりすることも、うまく活用してできることがあるのではないかと、ということで紹介した。

図書館：配送事業実施前に、寝屋川の方と話をする機会があり、配送は業務委託との話であった。配本を行っている図書館は全国にたくさんある。四日市で郵便局との連携というと、社会教育課が導入し図書館に引き継がれた「四日市まちじゅうこども図書館」がある。絵本などの児童書を各郵便局に渡してあり、来局した親子などが自由に手にとって読めるようになっている。学校との連携としては、こどもの読書活動のことなどで、指導課・学校教育課など各課と話し合いをしているので、こういった形で連携できるか、なのはな文庫だけでなくタブレットを活用してできることもあると思うので、情報提供したり、学校側で提案があればどうやったらできるのかを相談しながら進めていきたい。

(3) 令和5年度図書館実施予定事業について

(事務局資料3説明)

- ・ 図書資料整備費・人権啓発拠点推進事業費（装備費値上げにより増額）
- ・ 電子図書館運営費
- ・ 新図書館基本構想策定事業費
- ・ 図書館屋上防水工事（閉館は予定しておらず）

委員：電子図書館について。生徒のタブレット端末を使用して、ということだが、小中学生に対して使い方は学校で説明していくのか。

図書館：どういった形での説明がよいのか、指導課等と話をしたところ、チラシなどを作成するのではなく、タブレットで配信するとか、さわって覚えていけるようなものを考えている。名古屋市では電子書籍を借りる練習ができるようになっている。提供事業者が決定したら、相談して決めていきたい。

委員：電子書籍の導入は学校側としても大きな変革になると考えている。若干、従来の図書の利用が伸び悩んでいるところで、こどもたちがタブレットを使いこなしている今、これが導入されることで、利用が大幅に伸びるのではないかと考えている。来年度以降も予算の獲得を頑張っていってほしい。きっと学校生徒にとっては、よいきっかけになると思う。

委員：電子図書館、導入時点でいきなり2万冊はすごいと思う。四日市の気合を感じる。若い方の読書推進に期待。名古屋市の図書館ホームページでは、ティーンズのページに電子図書館のバナーがあり、まずはそこが入口になっている。非常によいと思った。なかなか来館がない中高生に対してやっていただけるとよいのかな、と思います。

屋上防水工事について、3階の光庭というのはどうやって使用しているのか。

図書館：光庭について。図書館開館当時は、テラスのように読書できる場所として使用していたようだが、現在は、出られないようになっている。劣化も激しい。

名古屋市の図書館について。ティーンズのページに電子図書館のバナーがあるだけでなく、タブレット端末のトップ画面に電子書籍に行くためのアイコンがあり、そこからティーンズのページに飛ぶ。電子図書館だけでなく、ティーンズのページ・情報があることも知ってもらえる。当館ホームページではティーンズのページというのはないが、新刊などいろんなことを紹介しているので、タブレットにアイコンを作ることができるのかどうも含めて関係課と相談していきたい。

委員：電子書籍2万冊はどういう基準で選書をするのか。名古屋市など他市を参考にするのか。

図書館：導入時点で2万冊は、東海3県で一番を目指した。少ない冊数でも導入はできたが、こどもの読書を推進するという、自分たちの読みたい本にたどりつける冊数が必要、ということを考え、規模は大きくとった。選書は、司

書に頑張ってもらえることになるが、スターターパックがある業者や、導入支援を行う業者もあるので、四日市の利用ニーズと照らしあわせながら、選書をしていきたい。

委員：学校の図書館でも、電子図書館は話題になっている。学校においても導入したいけれども予算的なこともあり模索している。新しい図書館ができる一歩前に四日市が導入を決めてくれたのは非常にうれしい。3月に北勢の高校の司書に新図書館についてアンケートをとったところ、半数以上の司書から、学校での参考にするためにも、市立図書館での電子書籍導入を望む回答があった。予算についても、紙ベースの図書が減ってしまうことが心配であった。今後変わってくるかもしれないが、今は、電子も紙も両方読めるハイブリッドな状態で、いくのかなと思う。すごい勢いでタブレットでの読書がすすむと思うが、そこから、紙ベースのもので長編を読むなど、連携ができていくとよいなと思う。

図書館：議会でも電子書籍があるなら新図書館はいらないんじゃないか、紙の図書の予算は削れるのではないか、という話が出た。四日市には図書館法に基づく分館はない。分館をつくらない代わりに、どこにいても読める図書館が欲しい、ということは何度も説明して予算を得た。今度は、どれだけ使ってもらえるか、というところが重要になってくるので頑張っていきたい。

委員：電子図書館の購入資料は永久に見れるものではなく更新が必要かと思うが、同じものを買いなおす場合、安くなるのか。

図書館：安くはならない。毎年のように電子書籍のルールが変わっている。ずっと読める買取型と、2年間または52回貸出をするとアクセス権利が切れると有期限型がある。この2年しぼりが、3年、4年になるかもという話もあり、日々、電子書籍の状況は変わっている。いろんな自治体を見ているが、だんだん冊数が減っている自治体もあれば、ずっと右肩上がりのところもある。来年度の予算も確保はしてあるが、想定以上に利用が多かった場合、52回をどんどん達成されてしまい蔵書が減る可能性がある。毎年予算の見直しはあるので、想定以上に利用が多い、という場合はもっと購入できるよう予算を見直していきたい。

委員：新図書館基本構想策定事業費について。駅前に来るということで、完成時期は伸びるのか。

図書館：令和5年度に基本設計、令和6年度に実施設計となると思われる。その後は、工事期間も1年では無理なので延期されていく。かつての予定では令和6年ぐらいには市役所隣に建つ予定であったが、面積も増え、市役所単体の建物ではないことによる制約もあるが、みなさんの意見をたくさんひろいあげて、なるべく使いやすくしたいと思っている。いろんな図書館へ行くとそれぞれの特徴がある。四日市らしい図書館をつくるためにがんばりたいと考えている。

委員：基本設計と並行して聞き取りを行い、それを随時盛り込んでいくということか。建物の外側をきちんと決めてほしいが二転三転しているというか。

図書館：夏に一度覚書を交わしているが、二度目の覚書が決まっている。図書館としては、ソフト面の要望をどんどん出していき、絵に落とし込んでもらう。政策推進課、委託業者とともに協力してやっていく。

委員：博物館も四日市らしさをすごく出している。図書館も、四日市らしさをよく考えて、目指してほしい。

委員：業務委託にある、いろんな意見を聞くというのはとても大切だが、それを基本設計に反映させようと思うと、6月から秋ぐらいまでに集中して聞いていくスケジュールになるのか。

図書館：プロポーザル契約の関係で、2か月かかるため契約は6月になる。図書館ボランティアさんに何うことは先行してできる。また、令和5年7月に現在の図書館ができて50周年の企画を予定しており、そのときに新図書館についても考えていくという位置づけにしている。ワークショップ予算には託児予算もっており、いろんな層にむけて意見を聞く機会をとっていききたい。どうやって中身を使っていくか等は、その後もずっと続いていく話だと考えているので、ワークショップ予算は次年度以降もとっていききたい。

(4) 令和5年度の休館日について
(事務局資料4説明)

(5) その他

図書館：7月17日(月・祝)に50周年を振り返る企画を文化会館で行う。メリーゴーランドの増田さん、当時の職員でもある坂倉加代子さんの対談とし、振り返りと、これからの新しい図書館にむけて話をさせていただく予定。また詳細決まり次第、お知らせ予定。

委員：北勢地区の高校司書にとったアンケートを、各委員と図書館に配布。現図書館の使いづら点、新しい図書館への期待とともに職員体制などについて意見があるので参考にさせていただければ。